

26年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
入荷動向	国産材	△ 10.0	△ 10.0	20.0
	外材	△ 16.7	16.7	16.7
在庫動向	国産材	20.0	10.0	10.0
	外材	△ 16.7	0.0	△ 33.3

・国産材ラミナの入荷は、9月、10月は減少、11月に増加、外材は9月の減少が10月、11月には増加に。
・国産材ラミナの在庫は、3ヶ月連続して増加傾向、外材は9月の減少、10月の横ばいを経て11月には再び減少。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
国産材	0.0	0.0	△ 20.0
欧州材	0.0	0.0	0.0
その他	-	-	-

・国産材ラミナの入荷価格は、9月、10月の横ばいから11月は弱保合に。
・欧州材は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは、丸太価格も安くなり入荷量も順調、カラマツ入荷量は発注量に対しほぼ100%入荷、入荷量が順調なのでスギ、カラマツ共在庫量を調整中。
・入荷、在庫は通常通り。
・国産材は需要にかかわらず天候悪く出材減により入荷は自然減、回復は11月頃。外材の入荷は為替の影響あり急増はない。国産材は価格低迷するも荷動きは維持しており在庫は横ばい、外材の土台の動き悪く仕入れを減らしているため在庫は減少もしくは横ばい。

(ラミナ価格動向)

・スギは前月よりやや下落、カラマツは前月同様依然強含みで推移。
・WW, RW共に下落傾向、それにつれて国産ラミナも下り傾向。
・国産材は原木の出材による、欧州材は為替の影響が出てくる。

26年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/9月	10月	11月
生産動向	国産材	0.0	20.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	RW集成平角	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 10.0	20.0	0.0
	WW集成管柱	△ 25.0	0.0	50.0
	RW集成平角	0.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は、9月は横ばい、10月の増加を経て11月は再び横ばいに、WW集成管柱及びRW集成平角の生産は9月の横ばいが10月、11月は減少に、米マツ集成平角は9月の大きな減少の後10月、11月は横ばいに。
 ・国産材集成材の出荷は、9月は減少し、10月に増加した後、11月には横ばいに、WW集成管柱は9月は減少、10月の横ばいを経て、11月は増加に、RW集成平角は3ヶ月連続して横ばい、米マツ集成平角は9月の減少の後、10月、11月は横ばいに。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/9月	10月	11月
スギ集成管柱	△ 16.7	△ 33.3	△ 16.7
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	16.7
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	25.0
カラマツ集成土台	△ 25.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7
RW集成平角	0.0	25.0	25.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	—

・スギ及びWW集成管柱の価格は、3ヶ月連続して弱保合、ヒノキ柱及び土台は9月、10月の横ばいの後11月には強保合に。
 ・カラマツ土台は9月の弱保合の後、10月、11月には保合に。
 ・米マツ平角及び米ヒバ土台は3ヶ月連続して横ばい、カラマツ集成平角は9月の弱含みが10月には保合に。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・製品需要は依然低調で、販売量が見込めず受注量に応じた原料仕入れ、生産にとどまっている。住宅着工減やコスト重視で樹種転換等により、製品需要が減退。秋需による一般物件の増加には期待出来ないが非住宅、地域型住宅ブランド事業など10月以降の需要がやや増加。
 ・生産は通常通り、出荷変化なし。
 ・国産材は、消費税10%の駆け込みが少し期待できるが、大きな回復は見込んでいないので生産量はやや増加程度。米ヒバ平角の急増は期待できない。出荷は外材から国産材に切り替えるプレーヤーもあり、この秋は少しずつ増えてくる。米ヒバ土台は3月から8月にやや減少であった、全体の仕事量が増えれば横ばいにはなるのだが。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギは製品需要と供給のバランスが取れず安値玉の製品がみられる。状況の好転は考えにくく更に価格は弱含みと見込む。カラマツは原料価格が下がらず製品も高止まりで、競合製品との値差は開く一方で値下げ要求が強い、受注確保のため採算悪化も必至で、価格は弱含むが大幅な受注増加には期待できない。
 ・全体に少し値下がり傾向。
 ・ヒノキは、原料代は上昇だが販売数量確保が第一で価格転嫁はその先、10月末位で供給不足なら価格の話が出来るかも。米ヒバは為替の影響で原料代が上がってくるということで値下げしないですんでいる。